

中央大学 法と正義の資料館・大学史資料館

館報（2025年度）



2026年4月

中央大学資料館事務室

目次

1 . はじめに（館長ご挨拶）	1
2 . 活動報告	3
【法と正義の資料館】	
（1）展示関係	3
（2）高校生プログラム関係	6
【大学史資料館】	
（1）展示関係	10
（2）刊行物関係	13
【共通（来館者数等）】	
2025 年度来館者数	16
2025 年度団体来館者数	16
2025 年度授業利用者数	16
3 . 2026 年度の活動予定（今後の課題）	17
【法と正義の資料館】	
（1）展示関係	17
（2）高校生プログラム関係	18
【大学史資料館】	
（1）展示関係	20
4 . 資料館概要	21

1 . はじめに（館長ご挨拶）

中央大学 法と正義の資料館・大学史資料館 館長 大貫裕之
（学校法人中央大学常任理事・中央大学大学院法務研究科教授）

【法と正義の資料館について】

「法と正義の資料館」は、基本的人権の擁護や正義の実現のために歴史上枢要な役割を果たした法曹その他の偉人の業績を広く顕彰することにより、教育にも資することを目的とした資料館です。2024年4月、中央大学多摩キャンパス内に「大学史資料館」と同時に開館しました。

本資料館は、法と正義、人権の理念について歴史的そして理論的に検討する「常設展」を設けます。正義、人権の実現のため人々は行動し、その実現を勝ち得ました。普遍的正義というものは、黙っていても実現するものではありません。正義や人権の実現のためには、個々人の行動が必要です。正義の実現、人権の保護のために行動された方々にも「企画展」を通じて焦点をあてることにします。

また、これらの展示を通じて法と正義について思索をする機会として、広く高校生を対象としたプログラムを実施します。

日本弁護士連合会様には本館開館時からご後援を賜っております。当該関係に基づき、淵上玲子会長から来館者の学修に供する図書のおすすめを賜り、また、展示の構想について執行部の皆様からご助言等を頂戴しています。

これまでのご協力にお礼申し上げますと共に、今後も本資料館に厚いご支援を賜れますようお願い申し上げます。

【大学史資料館について】

中央大学は、1885年に英吉利法律学校として設立されました。その後、校名は変遷しましたが、1905年に中央大学と改称され現在にいたっています。同年の二十年史を皮切りに、以来節目ごとに編纂物が刊行されてきました。1980年には百年史の編纂のため、大学史編纂課が設置され（のちに大学史資料課）、同課を中心に資料の収集・保存がおこなわれてきましたが、そうした資料をまとめた形で公開できる施設はありませんでした。本資料館は、本学の歴史および本学関係者の事績等について、調査をするだけでなく、その成果を在学生の教育に生かし、更に広く社会にも発信するための施設です。

「常設展」では、創立以来の本学のあゆみを知ることができます。「企画展」では大学の歴史の特徴的な側面を取り上げる予定です。

1つの大学が保有する資料は社会の共有の知的資源であり、本資料館は本学の発展のみならず、大学にかかわる学術の進歩に大いに貢献できるものと信じます。

2. 活動報告

【法と正義の資料館】

(1) 展示関係

1. 第2回企画展「森 重昭と被爆米兵調査 戦争が終わるといこと」

(1) 開催概要

期間：2025年5月17日(土)～2026年3月31日(火) 2026年4月11日(土)

森重昭氏の急逝を受け、反響が大きいことから会期を延長した

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔2階 法と正義の資料館企画展示室

(2) 企画概要

2025年はアジア・太平洋戦争の終戦から80年となります。こうした節目に、本展「森重昭と被爆米兵調査 戦争が終わるといこと」では、2016年5月27日にオバマ大統領が史上初の現職大統領として広島を訪問した際、被爆者代表として抱擁を交わした本学出身者森重昭とその活動にフォーカスしていきます。

森は広島への原爆投下に遭った被爆者です。彼は戦後になり、日本軍の捕虜として広島で被爆したアメリカ軍兵士の調査に従事し、その足跡を明らかにしました。さらに被爆米兵の遺族に対し、自身の調査の内容を手紙で伝えるという活動を行っていきます。

本展ではこうした森の活動から、戦後80年を迎える今、改めて「戦争が終わるといこと」について考えてみたいと思います。



第2回企画展「森 重昭と被爆米兵調査 戦争が終わるといこと」チラシ

2. インターネット企画展「医学的証言を覆せ 弁護士松波淳一の闘い」

(1) 開催概要

期間：2025年2月26日～（公開中）

場所：第1回企画展のインターネット上での公開

https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/internet_exhibition/matsunami/

(2) 企画概要

イタイイタイ病弁護団の中心として活躍した松波淳一弁護士はイタイイタイ病裁判で被告側に立つ科学者・医学者の証言を反対尋問で覆し、公害裁判のあり方をも変える勝訴判決を獲得することに成功する。その後は、スモン病、水俣病弁護団等の公害裁判に携わり、一貫して被害者救済に尽力した。

当館では、こうした松波弁護士の活動を紹介するため、開館にあたり松波氏からご寄贈頂いた蔵書をはじめとする多くの貴重な資料を活用して、第1回の企画展として「医学者証言を覆せ 弁護士松波淳一の闘い」を実施してきた。本展では、この企画展をさらに広く日本中に伝えるため、インターネット特別展という形で装いを新たに公開していく。



インターネット企画展「医学的証言を覆せ 弁護士松波淳一の闘い」チラシ

3. 常設展に特集「人権を我々のものとするために」を新設

2026年1月28日（水）より、法と正義の資料館 常設展示室に新たに特集を設置・公開した。

「人権を我々のものとするために」と題して、正義の実現を目指し人権擁護のために行動する個人や集団、組織、そして、それらの行動をきっかけにして生まれてきた人権保障のための仕組みや法について紹介している。

人権は所与のものではなく、つかみ取らなくてはならないことを来館者とともに考えるコーナーとなっている。

展示は以下の構成となっている。

- ・日本司法支援センター（法テラス）の設立 司法アクセス障害の解消のために
- ・法テラスの業務 司法の「壁」を乗り越えるための取組
- ・スタッフ弁護士 司法のセーフティネットとして
- ・法テラスとスタッフ弁護士の新たな役割 司法ソーシャルワークの取組

そのほか法テラスの取組や役割を紹介する動画の放映、広報誌の配布、法テラス作成の白書等の閲覧スペースの提供を行っている。法テラスは2026年に設立20周年を迎えるが、設立以後20年のあゆみをまとめた冊子も閲覧することができる。



特集「人権を我々のものとするために」

(2) 高校生プログラム関係

2025 年度の高校生プログラム

1. 高校生プログラムの目的

法と正義の資料館は「基本的人権の擁護や正義の実現のために歴史上枢要な役割を果たした法曹その他の偉人の業績を広く顕彰することにより、教育にも資することを目的とした資料館」である。

この目的の後段「教育にも資する」を実現するために、来館者に展示資料を提示するだけでなく、広く高校生を対象とする【高校生プログラム】を計画した。

プログラム参加者が正義について思索するきっかけをつかんで考えを深め、さらには日々の学習活動や将来の進路選択が「基本的人権の実現」を視野に置いたものになってほしい。私たちはそのように願っている。

2. 概要

1 2025 年度の実施形態

全体時間は大きく二つのコマに分かれ(休憩をはさんでほぼ1時間半ずつ)、1コマ目はワークシートを用いた展示見学の時間、2コマ目は各5人ほどのグループで調査、ディスカッションおよび全体ディスカッションなど作業時間とし、最後にプログラムの感想を感想シートに記入する時間をとった。

大人数を受け入れたものとして、中央大学高等学校(以下「中大高校」)「社会研究」受講者全員、中央大学附属横浜高等学校(「附属横浜高校」)の法学部進学予定者全員の二例があり、この時は全体を午前と午後に分けた。中大高校の場合は、展示室の収容人数の限界から、午前組・午後組をそれぞれ2グループに分けて時間差をつけて見学を実施した。

プログラム参加生徒たちが実施内容を思い返し、さらに今後の学習を促すために、事後学習資料集を提供した。

ワークシートと感想シートにごく簡単なコメントを付し、さらに「返却にあたって」という書面と一緒に返却した。

1 内容

1コマ目は展示についての説明を聞きながら、また並行して、ワークシートに記入しながら展示を見学。ワークシートは展示文章を読み込む際の参考的観点を提示した。

2コマ目のインターネット検索調査では、企画展をふまえて、原爆被害者援護に関わる特定の裁判を調査対象とした。

続けて調査結果をグループ内で共有し、さらに全体発表することで共有を広げ、それぞれが視野を広め、認識を深める場とした。

共有したことをふまえて、正義＝人権の実現のために、自分(たち)が何をすべきか、何が

できるか、といったことについて意見交換を行った。

事後学習資料集には、国連憲章、日本国憲法、世界人権宣言、旧教育基本法、弁護士法、男女雇用機会均等法、子どもの権利条約などを抜粋で掲載した。

3. 2025年度の実施状況

2025年6月14日 中大高校「社会研究」受講者3年生107名

7月12日 ウェルカムイベント(中大高校、中央大学附属高等学校) 2年生5名

8月6日 跡見学園高等学校 1年生7名、2年生3名、3年生4名 計14名

10月18日 附属横浜高校 1年生8名、2年生2名 計10名

12月13日 公募(1) 2年生1名、1年生1名 計2名

12月20日 横浜国立大学教育学部 小沢 准教授 授業 大学3年生17名

2026年1月24日 附属横浜高校 法学部進学予定者 3年生67名

2月7日 公募(2) 2年生1人、1年生1人 計2名

3月28日 公募(3) 2年生11人、1年生8人 計19名

4. 募集について

募集については以下のような形態をとった。 は対象者全員に参加を義務付け、 は学校を通じて公募し、 では周辺高校へのポスター掲出、さらにホームページと公式Xに募集記事を掲載した。この公募では、千葉、新潟、岐阜、静岡、さらには関西圏(京都)からも応募者があった。

5. 取り組みのまとめから 振り返り

中大高校「社会研究」=希望者のみでないことから、十分には関心の高まらない生徒が一定数いることは避けられず、見学中に持て余し気味にしている生徒には、こちらが積極的に話しかけて関心を引き出していく必要があった(関係性が希薄な中で簡単なことではなかったが)。資料館の名称からも、法学分野に関心のない生徒には無縁に思われてしまいかねないが、法学教育が一般的に求められる中で、ここはぜひ乗り越えていきたい。いま一つの課題は、調査に向けた提示資料(水俣病訴訟一覧)の検討である。調査結果の発表を見聞きすると、提示資料にすでに記述されている内容からの掘り下げが十分でなく、生徒たち独自の調査がみえにくかった。いったん水俣病事件から離れ、第4章に扱われる他の内容から調査作業の対象を選ぶことも考えてみたい。

ウェルカムイベント=2 コマ目の取り組みでは検索調査に先立って法学部授業に登壇した胎児水俣病患者さんの動画を見た。これによって、教科書の中に「固定された」歴史の話だった水俣病事件が、実は現代につながることで生徒たちは認識したのではないだろうか。これらを受けて取り組み時間の最後には、前回までの感想にかえて「法と正義についてかんがえること」を書いてほしいと求めた。何かしら、考察したものを表

してほしいという意図から発した問いであるが、実際に書かれたものを見ると戸惑いを感じられ、問いかけの意図を十分に伝えることができなかつたように思える。学年、つまり学習発達段階の限界もあつたのであろうか。次回は感想文に戻そうと考えた。跡見学園高校 = 「どうして自分はこんなにも生きづらいのだろうと考える時もありました。でも、今日資料館を見て、そういった『不正義』に苦しむ人々に対して、どういったことができるのかを考える中で、自分の現状を打破するためにはどうしたらいいのか考えるきっかけとなりました。」という感想が寄せられた。常設展示が、自分の生き方を正義の観念に位置付けて考えるきっかけとなつたようだ。これだけでも、法と正義の資料館は大きな役割を果たしたといいたい。

附属横浜高校 = 「自分に知識がないと不正義について、そもそも気づけないので、常日頃からニュースに対して、この事件や裁判は本当に正義に当てはまっているのかという疑問をもつ心が大切だと思いました。自分が不正義に気づくことができたら、周りの人に伝えることや忘れないこと、話し合うことを大切にして、実行していきたいです。」という感想があつた。正義とは何か、正義にかなうとはどういうことか、そうした思索への道が見え始めている。周囲と話し合うことの大切さへの気づきも評価したい。

公募(1) = 2年生はこの課題に対して、今回新しい知識を得たことをふまえて、学びを重ね、周囲の人と共有していきたいという思いを語つた。これに対して1年生は「理不尽な校則を変えたい」と考えたという。読み進むことに難儀していた生徒であつたが、第4章にある「子どもの権利条約」は自分に引き寄せることができたようで、意見表明権を自分のこととして捉えたのであろう。こうした行動形の意見表明はこれまでなかなか出てこなかつたものであり、私たちの注意を引いた。

横国大 = 美術を専門科目とする学生が一人参加しており、常設展第1章に登場するラファエロの作品を見て、「社会と美術のつながり、法と正義というものを表現しようという思い、そして、それらが文化や道徳と結び付いているということが感じ取れた」と感想を寄せた。芸術作品も時代の中で生まれるのであり、この学生が将来教壇に立った時、このプログラムで得た知識・認識を授業に反映してくれることを期待したい。

附属横浜高校 法学部進学予定者 = 自分たちにできる社会正義の実現について、被害と補償について、つり合いという点から正義について考える生徒、模擬裁判をやってみようという生徒、すでに存在するルールや法律を疑ってかかってみる(批判的に検討する)といった意見を持つ生徒など、いろいろな考えが示された。

公募(2) = 参加した2年生は「以前、弁護士という人たちはなぜ悪人の弁護をするのか、疑問に思っていた」そうだが、今回の取り組みを通じて「弁護士に対する見方が変わった」という感想に至つた。人権思想の発展を追う常設展が第5章で弁護士にたどり着き、さらに法テラスの取り組みを知ることによって弁護士の使命を知るといふ、この生徒にとっての大きな意味を実感できる取り組みとなつたわけである。

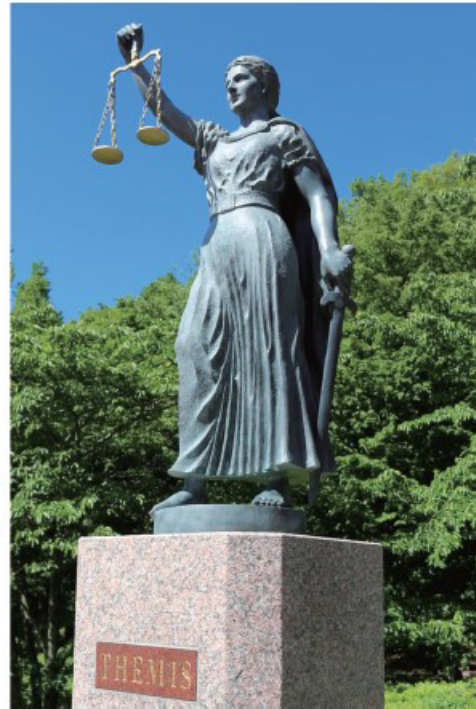
中央大学 法と正義の資料館 教育プログラム

“正義”の扉を開こう

有史以来、人間は正義を切望し、正しいルール＝法について考えてきました。人権に光の当たった市民革命以後、法の重要性はますます高まり、現代に至って、不正義に苦しむ人を救済するその役割はいよいよ大切になっています。

高校生の皆さん。このプログラムで「法と正義」の理論と歴史を学び、私たちが生きる現代に、正義の実現を考えてみませんか。

皆さんの参加を心から待っています。



多摩キャンパスのテミス像

法と正義の資料館 教育プログラム

所要時間 約2時間

第1時間

資料館常設展と企画展の見学



第2時間

ディスカッション



教育プログラムの内容については、チラシまたは資料館 web サイトからご確認ください

開催スケジュール

①2024年12月4日(土) 14:00～16:00

②2025年2月8日(土) 14:00～16:00

各回定員 20名

※申し込み多数の場合は抽選とします
あらかじめ、ご了承ください

参加申し込み

Google form より申し込んで下さい
申し込み締め切り 11月23日(土)

URL

<https://forms.gle/uawb5cXnajZYpcg47>



中央大学多摩キャンパス 交通アクセス



中央大学 資料館事務室

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

TEL:042-674-2132

法と正義の資料館 web サイト

https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/law_and_justice/



法と正義の資料館 高校生プログラム「正義の扉を開こう」ポスター

【大学史資料館】

(1) 展示関係

1. 第2回企画展 中央大学創立140周年記念展示「140年のあゆみ」

(1) 開催概要

期間：2025年7月8日(火・創立記念日)～2026年4月27日(月)

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔2階 大学史資料館企画展示室

(2) 企画概要

2025年に中央大学は創立140周年を迎える。中央大学大学史資料館では、創立140周年を記念した第2回企画展「140年のあゆみ」を開催する。

本学は英吉利法律学校から始まり、経済、商、理工(工)、文、総合政策、国際経営、国際情報といった学部、ロースクールやビジネススクールといった専門職大学院、戦後直後の通信教育部の開設と、時代や社会の要請に応じて学部・専門職大学院等を充実させてきた。本展では、各学部等の歴史や学びを示す所蔵資料を公開し、資料を基に編まれた周年史、特に2025年12月に発行予定の創立140周年史を紹介する。本展を通じて本学140年のあゆみを振り返り、未来へとつなげる。

【展示構成】

序章 中央大学創立140周年 1885 2025

第1章 140年の歴史

第2章 中央大学の展開

第3章 大学史資料館の所蔵資料

第4章 中央大学創立140周年史

終章 中央大学の未来へ 2025

【展示スケジュール】

第2章 中央大学の展開

法学部・通信教育部・法務研究科：2025年7月8日(火)～2025年9月22日(月)

経済学部・商学部：2025年9月25日(木)～2025年11月22日(土)

理工学部・文学部：2025年11月26日(水)～2026年1月26日(月)

総合政策学部・国際経営学部・国際情報学部・戦略経営研究科
：2026年1月28日(水)～2026年4月27日(月)

第3章 大学史資料館の所蔵資料

- 増島六一郎 / 講義録 : 2025年7月8日(火)~2025年7月19日(土)
- 菊池武夫 / 菊池武夫のボストン留学 : 2025年7月23日(水)~2025年8月7日(木)
- 花井卓蔵 / 法典論争と東京法学院 : 2025年8月20日(水)~2025年9月2日(火)
- 中央大学の学生服 / 中央大学の学帽・徽章
: 2025年9月3日(水)~2025年9月22日(月)
- 中央大学の予科・専門部 / 中央大学の夜間部
: 2025年9月25日(木)~2025年10月27日(月)
- 中央大学と戦争 / 中央大学と国際交流
: 2025年10月29日(水)~2025年11月22日(土)
- 中央大学の学員会・学友会 / 中央大学と女子学生
: 2025年11月26日(水)~2025年12月22日(月)
- 中央大学と研究所 / 中央大学と大学院
: 2026年1月6日(火)~2026年1月26日(月)
- 多摩キャンパス建設 / 中央大学の附属校
: 2026年1月28日(水)~2026年2月21日(土)
- 中央大学の歌 / 中央大学の白門 : 2026年2月25日(水)~2026年3月17日(火)
- 中央大学の法服 / 中央大学の学生服・アカデミックガウン
: 2026年3月18日(水)~2026年4月7日(火)
- 中央大学の周年記念事業 50~90周年 / 中央大学の周年記念事業 100・125周年
: 2026年4月8日(水)~2026年4月27日(月)



第2回企画展「140年のあゆみ」チラシ

2 . インターネット展 中央大学創立 140 周年記念展示「140 年のあゆみ」

創立 140 周年記念展示を多くの方にご観覧いただけるよう、企画展開催に合わせてインターネットでも公開する。

期間：2025 年 7 月 8 日～（公開中）

https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/internet_exhibition/140th/

(2) 刊行物関係

1 . 中央大学創立 140 周年記念史『中央大学 140 年のあゆみ - 1885-2025』

中央大学は、2025 年に創立 140 周年を迎えた。これを記念し、中央大学創立 140 周年記念史『中央大学 140 年のあゆみ 1885-2025』を刊行した。

中央大学創立 140 周年記念史『中央大学 140 年のあゆみ - 1885-2025』

中央大学大学史資料館運営委員会編

2025 年 12 月刊行 定価 2,310 円 (本体 2,100 円 + 税)

A5 判・並製・カバー装・406 頁 ISBN978-4-8057-4153-5

目次

第一部 英吉利法律学校の成立と展開

解説 学校設立前後の日本社会

第一章 一八人の創立者たち

第二章 英吉利法律学校の開校と教育

第三章 政府の私立学校関連法制と英吉利法律学校

解説 明治中期から大正期の日本社会

第四章 法典実施延期運動と英吉利法学、東京法学院

第五章 中央大学の誕生

第六章 大学令前後の中央大学

解説 昭和戦前期の日本

第七章 戦争と中央大学

第八章 戦前の学生生活 運動会と大学祭

第二部 旧制大学から新制大学へ

解説 戦後の日本社会

第九章 新制大学への再編と女子学生の誕生

解説 学生運動の時代

第一〇章 大学の民主化を求めて

第一一章 「中央大学新聞」に見る駿河台時代の学生生活

解説 高度経済成長期の日本社会

第一二章 「中央大学施設基本計画」に見るキャンパス構想の歴史的変遷

第一三章 仮執行体制と中央大学の学生運動

第一四章 多摩移転期の学生生活(一九七八 一九九九)

第三部 中央大学の現在と未来

解説 一九九〇年代の日本社会

第一五章 カリキュラムの変遷と保健体育科目

第一六章 夜間部の廃止と学際領域への展開

解説 二〇〇〇年代の日本社会

第一七章 中央大学アイデンティティの再定義

第一八章 専門職大学院の設置とキャンパスの整備

解説 近年の日本社会

第一九章 国際化と多様化に向けて

第二〇章 科学技術の発展と理工学教育の進化

第二一章 総合学園への道

中央大学高等学校

中央大学附属中学校・高等学校

中央大学杉並高等学校

中央大学附属横浜中学校・高等学校

第二二章 中央大学の危機 災害・感染症

中長期事業計画「Chuo Vision 2025」と本学の近年のあゆみについて

【FD・SD ミニセミナー】

140周年史の刊行にあわせて、執筆者の中から3名の先生方に登壇いただき、『中央大学の歴史』シリーズとして、本学教職員を対象としたFD・SDミニセミナー(オンデマンド方式)を開催した。

第1回 テーマ:「建学の精神・創立期」

公開日時: 2026年2月27日(金)

講師: 法学部 北井 辰弥 教授

第2回 テーマ:「昭和初期から第二次大戦後」

公開日時: 2026年3月6日(金)

講師: 法学部 岡田 大士 教授

第3回 テーマ:「学生運動の時代」

公開日時: 2026年3月13日(金)

講師: 文学部 清水 善仁 准教授

2 . 中央大学大学史ニュース Vol.3

大学史資料館では、2035年の創立150周年に向けた年史編纂の記録として、2021年度より『中央大学大学史ニュース』を発行している。2025年度はvol.3を発行した。

『中央大学大学史ニュース』Vol.3

中央大学大学史資料館運営委員会専門委員会編

2026年2月28日発行

A4判、両面カラー印刷、8頁

目次

研究会報告

鳴子博子「『中央大学百年史』下巻第10章の読み直し」

動向

奥平晋「大学史資料館オープンについて」

活動報告

高橋宙暉「中央大学大学史資料館運営委員会編『中央大学140年のあゆみ 1885-2025』(中央大学出版部、2025年)刊行にあたって」

資料紹介

加藤絵里子「シドモア関係資料 法律家シドモアとアルトン号」

資料寄贈のお願い / 大学史資料館運営委員会専門委員一覧

【共通（来館者数等）】

2025年度来館者数（中央大学大学史資料館を含む）

計 5,737名（2024年度 計 6,619名）

② 2025年度団体来館者数（中央大学大学史資料館を含む）

11団体 計 213名（2024年度 17団体 計 316名）

2025年度授業利用者数（中央大学大学史資料館を含む）

31回 計 461名（2024年度 17回 計 314名）

3 . 2026 年度の活動予定（今後の課題）

【法と正義の資料館】

（ 1 ） 展示関係

1 . 第 3 回企画展「誰も排除しない社会へ 弁護士 大谷恭子の挑戦」

開催概要

期間：2026 年 5 月 18 日（月）～2027 年 3 月 31 日（水）（予定）

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔 法と正義の資料館企画展示室

②企画概要

法と正義の資料館第 3 回企画展では、弁護士大谷恭子を取り上げます。大谷は著名な裁判の弁護を担当していくなかで、鋭い感性によって裁判の背景にある社会の歪みを見つけだします。彼女はみなと共に生き、差別のない尊厳が保障される社会の実現を目指し、法廷の外に活動の範囲を広げ、救いが必要な人に手を差し伸べていきました。2024 年に彼女が亡くなった現在でも、彼女の想いを引き継ぐべく多方面で活動が行われています。大谷が希求した「共に生きる」社会の実現のためには、私たち一人ひとりが「誰も排除しない」という想いを胸にきざみ、様々な人と交じりあって生きようとするのが重要です。本展が「誰も排除しない」社会について考え、実践するきっかけとなれば幸いです。

章構成は以下を予定しています。

はじめに

第 1 章：弁護士大谷恭子の誕生

第 2 章：誰も排除しない「共生社会」の実現を目指して

第 3 章：真の男女平等を目指して

おわりに

2 . 2027 年度以降の展示計画について

次期企画展について

「原田正純 水俣病を見てしまった者の責任」をテーマとして検討中である。

(2) 高校生プログラム関係

2026 年度の高校生プログラム

1 . 2025 年度実績を振り返って

資料館開館と同時にスタートした高校生プログラムは 2 年にわたる実施で流れが定着し、今年度は全 9 回の実施となった。

毎回、生徒作業用のワークシートの内容や検索調査項目を少しずつ手直しするものの、全体の構成はほぼ固まってきたといえる。生徒たちの感想からも、普段の学習や生活では目に入らなかったいろいろな気づきを得ていることが分かる。以上をふまえて、2026 年度も多くの高校生を迎えたい。

2 . 募集対象者

中大附属 4 校ほか一般高校も対象として募集を告知する。

中央大学高校「社会科研究」受講の 3 年生(約 100 名)を対象として、授業の一環に位置付ける。

高校生プログラムへの関心の高まりに応じ、各附属校の事務室との協議を行う。今後の附属校からの申し出と資料館の受け入れ能力をふまえて、法学部進学予定者のみを対象とする回も想定することとする。

実施時期

2026 年 6 月 中大高校「社会研究」

7 月 ウェルカムイベント似て附属 4 校から

8 月 跡見学園

9 月中旬～2027 年 3 月 各附属校

2027 年 1 月ないし 2 月 附属校法学部進学予定者

は附属校からの申し出をふまえて、実施時期を決定

9 月中旬～2027 年 3 月一般公募(全 3 回を想定)

今後の課題

附属校生徒の受け入れ

次年度は高大連携との関係からも附属校の関心は高まっていくと思われる。本館の目的からいって歓迎したい傾向であるが、一方で受け入れ能力を考えれば、限界もみえてくる。スケジュールと希望人数を合わせ考えながら、継続可能かつ有意義なプログラム実施を探っていきたい。

一般公募の期日設定について

2024年度は12月13日および2025年2月8日の二回で設定し、2025年度は12月12日、2026年2月7日、3月28日の三回を設定した。

応募状況を見ると、両年度とも最終回が盛況で、2026年3月28日は21名の応募となった。

一方、12月実施の回はあまり振るわない傾向がはっきりしており、募集について再考の余地がありそうである。

ただし、応募者が目にするHPについて、今年度は当初クラウドファンディングを優先し、その後トップに移してから応募が増加したので、こうした要素も含んで考慮する必要があるろう。

【大学史資料館】

(1) 展示関係

1 . 2026 年度所蔵資料展「メンタル・ハーモニー

中央大学音楽研究会男声合唱部グリークラブ OB 会寄贈資料展」

開催概要

期間：2026 年 5 月 20 日（水）～2026 年 8 月 31 日（月）(予定)

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔 大学史資料館企画展示室

②企画概要

大学史資料館では、企画展会期の間を埋めること、資料寄贈の促進を図ることを目的として、2026 年度所蔵資料展を開催する。展示作成にあたっては、業者を入れず、すべて自作にて行う。所蔵資料展で展示する資料は、2025 年 11 月に解散した中央大学音楽研究会男声合唱部グリークラブ OB 会よりの寄贈資料である。

2 . 第 3 回企画展 中央大学第 60 回白門祭記念企画展示「白門祭の歴史（仮）」

開催概要

期間：2026 年 10 月 19 日（月）～2027 年 6 月末（予定）

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔 大学史資料館企画展示室

②企画概要

中央大学の大学祭である白門祭は、2026 年に第 60 回の節目を迎える。そこで、2026 年度の大学史資料館第 3 回企画展示では、それを記念した企画展示を開催する。

1946 年より開催されていた大学祭は、1957 年に白門祭の名称が与えられた。その後、1970 年前後には学生運動の影響による中断・再興、そして近年ではコロナ禍によるオンライン開催など、幾多の困難を乗り越えながらも発展し続けている。本企画展示では資料館が所蔵する資料だけでなく、白門祭実行委員会事務局が所有する歴代の史資料とともに、白門祭の草創から今の取り組みにいたるまでを紹介する。

これまで編年的に扱われることの少なかった白門祭を大学史の中に位置づけ、加えて学生の自治についても知る機会とする。初の試みである学生との共同による企画展示および広報により、学内における当資料館の認知を広げることが期待される。

3 . 2027 年度以降の展示計画について

2028 年度企画展について

「年史編纂の舞台裏」をテーマとして検討中である。

4 . 資料館概要

施設名称 中央大学 法と正義の資料館・大学史資料館
事務所管 中央大学 資料館事務室
所在地 東京都八王子市東中野 742 - 1 学生研究棟「炎の塔」2F
連絡先 Tel (042) 674 - 2132
Fax (042) 674 - 2203
E-Mail arcshiryokan-grp@g.chuo-u.ac.jp
URL <https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/>

1 . 建物概要

- 1) 構造 : 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上3階、地下1階
- 2) 設計監理 : 株式会社 佐藤総合計画
- 3) 施工 : 建築工事 鹿島建設 株式会社
電気設備工事 日本電設工業 株式会社
機械設備工事 株式会社 朝日工業社
- 4) 工期 : 2001年8月1日 - 2002年6月28日
- 5) 開館 : 2002年7月1日
- 6) 建築面積 : 2,163.34 m²
- 7) 延床面積 : 5,510.00 m²
- 8) 建築物の高さ : 15.25m
- 9) 展示室面積 : 107.172 m² (企画展示室)

2 . 職員

事務職員3名、嘱託職員6名(内、学芸員資格保有1名) 他

3 . 設定温湿度

1) 展示室内(平均値)

温度 : 夏季 25 ± 2 冬季 21 ± 2

湿度 : 夏季 50 ~ 60% 冬季 30 ~ 40%

2) 収蔵庫・前室

温度 : 21 ± 2

湿度 : 50%

3) 展示ケース内

ケース内にデータロガーを設置する。

ケース内に調湿保存剤(アートソープ等)を設置する。

空調設定は展示室内に準ずる。

4．展示室照明（光源）

- ・美術館・博物館用蛍光灯（紫外線吸着幕付き）を使用（天井設置）
パナソニック社：FHS32N - EDL NU
- ・設定照度（展示資料表面）：40～75lx

5．防災・防犯体制

- 1）消火：ハロゲン化合物消火設備（ハロンガス） 消火器
- 2）開館時間の警備：展示室内は常時1～2名の職員を配置し、監視を行う。
- 3）夜間の警備：警備員による夜間巡視。

行 動 す る 知 性。

